

## 来賓挨拶

国土交通大臣政務官、復興大臣政務官  
衆議院議員  
坂井学 氏



ただ今ご紹介をいただきました国土交通大臣政務官を仰せつかっております衆議院議員の坂井学でございます。本日のこの国際フォーラムの開催にあたり、心からのお祝いの言葉を一言申し上げたいと思います。

今年も、世界の各地で多くの災害が起こりました。先の大島での土砂災害、そして先日のフィリピンにおける台風30号による災害もありました。洪水の被害だけとりましても、4月のアルゼンチン、6月のヨーロッパ、9月にはタイ、ロシア、中国、アメリカと、各地で大きな被害が出ているということを知っています。本当に枚挙にいとまがないというほどの状況でございます。日本におきましても、大規模な台風が次々と上陸し、また記録的豪雨も発生しております。こうしたなか、雨量の記録も次々と書き換えられるような状況になってまいりました。また、今年は今まであまりなじみのなかった竜巻の被害もございました。異常気象、異常気象と言っておりますが、異常気象がもう毎年のことで、当たり前のような状況になってきており、本当に大きな変化が出てきているなと感じさせられるところでございます。

そのようななか、国といたしましても、こうした自然災害から、国民の生命と財産をしっかりと守っていかねばならないということで、災害に強靱なくにづくりというのが大きなテーマとして掲げられるようになりました。昨日も震度5弱という地震がありまして、東京もかなり揺れました。首都直下型のおそれ、そして東海、東南海の地震の指摘もされるな

か、緊急的な重要課題のひとつとして、この災害に対する強靱なくにづくりというものが掲げられるようになったと思います。この対応の分野は、洪水、そして地震災害、津波のみならず、多岐にわたります。そして、その手法も多岐にわたることから、ますます知恵を出していかなければならない分野だと思っております。

グレーインフラという言葉で今日は表現をされておりますが、当然コンクリートを使った構造物というものもその重要なひとつでございます。けれども、今日のテーマになっておりますグリーンインフラと呼ばれる自然生態系の多面的機能を活かした防災技術は、今までもっと議論されてきてもよかったにもかかわらず、十分議論されてこなかった大事な分野のひとつではないかと、このように思っております。

私は、横浜国立大学名誉教授の宮脇先生が提唱されている、緑の防潮堤の推進会議の座長を今務めさせていただいております。国交省、復興庁、農水省で、こういったかたちでの防潮堤にも理解を深め、実際に推進していきましょうということで、活動させていただいております。こうした活動は、いろいろな面で推進されていくべきではなかろうかと思っております。

私自身は、自然農の実践家の川口由一先生という方からいろいろなお話をうかがってまいりました。かねてより、我々人間にとって望ましいまちづくりとは、人間も生物の1種類であるという認識のもと、生態系を重視した環境対策が必要だということを

訴えさせていただいてまいりましたが、日本生態系協会は、まさにこれらの政策の提言を行うと同時に現実に即したかたちで、実際にその政策を、現実社会に着地をさせて実現をさせる、実践させるという意味で、大いに評価をされるべきではなかろうかと思っています。

本日はこのフォーラムのために、ヨーロッパからわざわざお越しいただいたゴーム・ディエ氏のお話には、国や地方自治体、そして多くの方々が参考になるものがたくさんあろうかと思えます。

今日この会場には、公務員の方々、議員の皆さん、そして企業、また NPO、NGO の皆さんがお集まりになっておられると聞いております。それぞれの皆さんが、今日のこの国際フォーラムを通じて、ひとつでもふたつでも重要なものを得て帰っていただきまして、明日からの活動に是非とも活かしていただきたい、このように強く願うところでございます。

今日の国際フォーラムの日が、新たなグリーンインフラへの一歩になることを心から祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。